

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表	
事業所名	てらびあぼけっと平野教室
公表日	2026年 2月 10日

利用児童数 30 回収数 17

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	2			活発な娘には、ちょっと狭く感じるかもしれません	活動量の多い児童への配慮が必要とのご意見を踏まえ、活動内容や人数に応じた空間の使い分けや配置の工夫を行い、適切な環境調整に努めてまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16			1		職員配置については法令基準を遵守した体制を確保しており、今後も児童の状況や支援内容に応じた適切な配置となるよう、継続的に確認・調整を行ってまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	1		1		生活空間の構造化や設備面については、児童が理解しやすい環境整備に努めておりますが、今後も障害特性に応じた配慮や情報伝達方法の見直しを行い、支援環境の向上に努めてまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	1				生活空間の清潔保持及び衛生管理を継続的に実施するとともに、児童の活動内容に応じた空間設定を行い、安全かつ快適に過ごせる環境の維持に努めてまいります。
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	1		1		児童一人ひとりの特性を把握した上で、専門性を踏まえた支援を実施しており、今後も職員研修等を通じて支援の質の向上に努めてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15		1	1		事業所が公表している支援プログラムと実際の支援内容が一致するよう、定期的な確認を行い、適切な情報提供と支援の実施に努めてまいります。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16			1		個別支援計画については、ガイドラインに基づき必要な支援項目を選定し、児童の状況に応じた具体的な支援内容の設定に努めてまいります。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16			1		作成した個別支援計画に基づき支援を実施しており、今後も支援内容の確認及び見直しを行い、適切な支援の継続に努めてまいります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	1		1		活動内容が固定化しないよう、児童の発達段階や興味関心に応じたプログラムの工夫を行い、柔軟な支援提供に努めてまいります。
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9		3	5		地域との交流については状況に応じて検討し、今後も関係機関等との連携を図りながら、適切な交流機会の確保に努めてまいります。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	1	1	4		家族支援については、必要に応じた情報提供を行っており、今後も保護者のニーズを踏まえた支援や参加機会の充実について検討してまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	17					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	2				定期的な面談や日常的な情報共有を通じて助言等を行っており、今後も保護者との連携を大切にしながら、継続的な支援に努めてまいります。

	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	3	3	7		保護者同士やきょうだいへの支援については、実施方法や機会について検討し、関係機関等とも連携しながら適切な支援の在り方を模索してまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14	2	1			相談や申入れに対する体制を整備し、内容に応じて迅速かつ適切に対応しております。今後も周知及び対応体制の充実に努めてまいります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11	2		4		活動内容や行事予定等について情報発信を行っておりますが、今後は発信方法や頻度を見直し、より分かりやすい情報提供に努めてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16			1		個人情報の取扱いについては、関係法令及び規程を遵守し、適切な管理を行っております。今後も職員への周知徹底を図り、管理体制の維持に努めてまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	3		5		各種マニュアルを整備し、保護者への周知を行っております。今後も想定訓練の実施等を通じて、非常時対応体制の確認と向上に努めてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	2		5		非常災害に備え、避難等の訓練を実施しております。今後も定期的な訓練を通じて、職員及び児童の安全確保に努めてまいります。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15			2		児童の安全確保に関する取組について周知を行い、支援を実施しております。今後も安全管理体制の点検及び改善に努めてまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14	1		2		事故等発生時には、速やかな連絡及び状況説明を行っております。今後も対応手順の確認を行い、適切な対応の徹底に努めてまいります。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	17					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	16	1				児童が安心して通所できる環境づくりに努めております。今後も日々の支援内容を見直し、安定した通所の継続に努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	1			しています。心強いです。時間がもう少し長くなってほしいです。	支援内容について概ね評価をいただいておりますが、ご意見を踏まえ、支援時間等も含めた提供体制の工夫と改善に努めてまいります。

事業所における自己評価結果						
公表		2026/2/10				
事業所名		てらびあぼけつと平野教室				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		個室を備え、マンツーマンを基本とした療育を行うことで、発達支援室のスペースに配慮した支援を実施しています。	現在の定員設定は適切と考えていますが、今後も利用児童数や活動内容に応じて、スペースの使い方や環境調整を継続的に見直していきます
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	児童の状態や特性に応じてマンツーマンで支援を行い、安心して活動できるよう職員配置に配慮しています。	現在の職員配置は概ね適切と考えていますが、今後も利用状況や児童の変化に応じて、より適切な配置となるよう継続的に見直していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		教室内はこどもに分かりやすい構造とし、段差のないフラットな環境を整えています。教室前までエレベーターで移動でき、バリアフリーに配慮しています。	現在の環境は概ね適切と考えていますが、今後もこどもの特性や支援内容に応じて、設備や情報伝達方法について継続的に見直しを行っていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		広場や個室を活動内容に応じて使い分け、こどもが心地よく過ごせる空間づくりを行っています。毎日、清掃や玩具の消毒を行い、清潔な環境の維持に努めています	現在の環境は概ね適切と考えていますが、今後もこどもの活動内容や状態の変化に応じて、空間の使い方や環境面の工夫を継続していく必要があると考えています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		複数の個室を備えており、こどもの特性や状況に応じて、個室や広場を選択しながら支援を行える環境を整えています。	現在の環境は概ね適切と考えていますが、今後もこどもの状態や支援内容に応じて、個別利用の在り方について継続的に見直していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	出勤している職員全員が朝礼や終礼、モニタリングに参加し、こどもの状況や支援内容について情報共有を行い、業務改善につなげています。	職員間での共有は行っていますが、今後は振り返り内容をより明確に整理し、業務改善に一層活かせるようPDCAサイクルの定着を図っていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	保護者向け評価表を通じて、保護者の意見や要望を把握する機会を設け、職員間で共有しながら業務改善に活かすよう取り組んでいます。	評価結果の共有と活用は行っていますが、今後は内容の分析をより丁寧に行い、具体的な改善策として反映できるよう工夫していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		朝礼や終礼、日々の振り返りの場を通じて職員の意見や気づきを共有し、支援内容や業務の改善につなげるよう取り組んでいます。	職員の意見を把握する機会は設けていますが、今後は意見の整理や記録をより明確にし、業務改善へ一層反映できるよう工夫していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	研修や関係機関からの助言を参考にしながら、支援内容や業務の見直しを行い、質の向上につなげるよう取り組んでいます。	第三者による外部評価については、実施機会が十分とは言えないため、今後は評価の導入や助言を受ける機会を検討し、業務改善に活かしていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		毎月様々なテーマの研修が行われており、受講し職員の専門性や支援技術の向上を図っています。日々の支援に研修内容を活かすよう努めています。	研修機会は確保していますが、今後は研修内容の共有や振り返りをより充実させ、支援の質向上につなげるよう工夫していきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1	支援プログラムを作成し、内容が実際の支援と合致するよう職員間で確認を行いながら、適切な支援の提供に努めています。	支援プログラムの公表や周知については、今後さらに分かりやすい情報提供となるよう、内容や方法の見直しを行っていきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		アセスメントを適切に行い、こども及び保護者のニーズや課題を客観的に把握した上で、個々に応じた児童発達支援計画を作成しています。	現在の支援計画は概ね適切と考えていますが、今後もアセスメント内容の充実を図り、より実態に即した計画となるよう見直しを行っていきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		児童発達支援管理責任者を中心に、支援に関わる職員が情報を共有し、こどもの最善の利益を考慮した支援計画の検討を行っています。	職員間での共通理解は図れていますが、今後も意見交換の機会を継続し、より多角的な視点で支援計画を検討できるよう努めていきます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	作成した児童発達支援計画を職員間で共有し、日々の支援において計画内容を意識しながら、統一した方針で支援を行っています。	計画の共有は行っていますが、今後は支援内容の振り返りや確認の機会をより充実させ、計画に沿った支援の定着を図っていきます。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		標準化されたツールを用いたアセスメントに加え、日々の行動観察を通じてこどもの適応行動の状況を把握し、支援内容の検討に活かしています。	現在の方法は概ね適切と考えていますが、今後はアセスメント結果の整理や共有をより丁寧に行い、支援計画への反映を一層充実させていきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	児童発達支援ガイドラインを踏まえ、「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援」の視点から、こどもに必要な支援内容を設定しています。	支援内容は概ね適切と考えていますが、今後は各支援項目の関連性や具体性をより明確にし、計画内容の充実を図っていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	活動プログラムは職員間で意見交換を行い、こどもの発達段階や特性を踏まえながら、チームで検討・立案しています。	プログラム立案は行っていますが、今後は検討内容の記録や共有をより充実させ、チーム全体での理解を深めていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		こどもの発達段階や興味・関心に応じて活動内容を見直し、同じ内容に偏らないよう複数のプログラムを組み合わせで支援を行っています。	現在は固定化を避けた取組を行っていますが、今後もこどもの変化を踏まえ、より多様な活動内容を取り入れられるよう検討していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		こどもの発達段階や特性に応じて、個別活動と集団活動を適切に組み合わせた児童発達支援計画を作成し、計画に沿った支援を行っています。	現在の支援は概ね適切と考えていますが、今後もこどもの成長や状況の変化に応じて、活動内容や組み合わせの見直しを継続していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援開始前には必ず職員間で打合せを行い、その日の支援内容や役割分担を確認し、共通理解のもとチームで連携して支援を行っています。	打合せは実施していますが、今後は内容の整理や記録をより明確にし、支援の質向上につながる連携体制の強化を図っていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後には必ず職員間で振り返りを行い、その日の支援内容や気づいた点を共有し、次回以降の支援に活かしています。	振り返りは実施していますが、今後は内容の整理や記録をより明確にし、継続的な支援改善につなげていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	日々の支援についてせらびーのーとを用いて記録を作成しています。支援内容やこどもの様子を振り返ることで、支援の検証や改善につなげるよう取り組んでいます。	記録は行っていますが、今後は記録内容の整理や活用方法を工夫し、支援の質向上により効果的に反映できるよう努めています。
	23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的なモニタリングを行い、こどもの発達状況や支援の効果を確認した上で、必要に応じて児童発達支援計画の見直しを行っています。	現在の見直し体制は概ね適切と考えていますが、今後は評価結果の共有や記録の整理をさらに充実させ、より適切な計画見直しにつなげていきます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議には、こどもの状況を把握している職員が参加し、情報共有と支援内容の確認を行っています。	会議への参加は行っていますが、今後は参加機会の確保や情報共有の方法を工夫し、関係機関との連携をより一層深めていきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	地域の医療、保健、障害福祉、保育・教育等の関係機関と必要に応じて連携を図り、情報共有を行いながら支援体制の構築に努めています。	関係機関との連携は行っていますが、今後は連携機会の拡充や情報共有の方法を見直し、より円滑な支援体制の強化を図っていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	併行利用や移行を見据え、保育所や認定こども園、幼稚園等と必要に応じて情報共有を行い、こどもの状況に応じた支援に努めています。	情報共有は行っていますが、今後は連携機会の確保や支援内容の共有方法を工夫し、相互理解をより深めた支援につなげていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		5		現在の取組は概ね適切と考えていますが、今後も学校との連携機会を継続し、より円滑な就学移行につながる支援体制の充実を図っていきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
関係機関や保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				

		(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3	地域の児童発達支援センターとの連携を意識し、必要に応じて情報収集や相談を行い、支援内容の向上につなげるよう取り組んでいます。	スーパーバイズや助言を受ける機会は十分とは言えないため、今後は連携機会の確保を検討し、専門的な助言を支援に活かせる体制づくりを進めていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	イベント開催時には、保育園や認定こども園などにお手紙を配布させていただいています。また、誰でも参加できるイベントになっています。	他事業所や地域のこどもの交流機会は十分とは言えないため、今後は関係機関との連携を検討し、交流の機会を広げられるよう取り組んでいきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		日頃から保護者とこどもの様子について伝え合い、発達の状況や課題を共有することで、共通理解を持った支援につなげています。	現在の取組は概ね適切と考えていますが、今後も保護者との対話の機会を大切にし、より丁寧な情報共有を継続していきます。
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		保護者のニーズに応じて、子育てに関する助言や情報提供を行い、家庭での関わりを支える支援につなげています。	現在の取組は概ね適切と考えていますが、今後は保護者が参加しやすい支援内容や情報提供の方法について、さらに工夫していきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	利用開始時に、運営規程や支援プログラム、利用者負担について丁寧な説明を行い、保護者が内容を理解した上で利用できるよう努めています。	説明は行っていますが、今後は資料や説明方法を工夫し、より分かりやすい情報提供となるよう改善していきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		児童発達支援計画の作成にあたり、こどもや保護者の意向を丁寧に確認し、こどもの最善の利益を優先した支援内容となるよう配慮しています。	現在の取組は概ね適切と考えていますが、今後も対話の機会を大切にし、より丁寧な意思確認を行いながら支援計画に反映していきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		児童発達支援計画を示しながら支援内容を丁寧に説明し、保護者に内容を理解いただいた上で、同意を得よう努めています。	現在の説明方法は概ね適切と考えていますが、今後も保護者の理解状況を確認しながら、より分かりやすい説明となるよう工夫していきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	1	定期的に保護者からの相談に応じ、子育てに関する悩みや不安について面談等を通じて助言を行い、家庭での関わりを支える支援に努めています。	相談対応は行っていますが、今後は相談内容の整理や支援後のフォローをより充実させ、継続的な支援につなげていきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5		保護者同士やきょうだい同士の交流支援については未実施のため、今後は必要性や実施方法を検討し、可能な支援の在り方を模索していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	1	相談や申入れに対応する体制を整え、保護者に周知するとともに、相談があった場合には内容を確認し、迅速かつ適切な対応を行うよう努めています。	対応体制は整えていますが、今後は相談内容の共有や記録方法をさらに工夫し、より安心して相談できる体制づくりを進めていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		定期的にHPやSNSも活用しながら、活動内容を保護者に分かりやすく発信しています。	現在の情報発信は概ね適切と考えていますが、今後も発信内容や方法を見直し、より分かりやすく必要な情報が伝わるよう工夫していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の取扱いについては、職員間でルールを共有し、書類の管理や情報の取扱いに十分配慮しながら、適切な管理を徹底しています。	現在の取組は概ね適切と考えていますが、今後も職員への周知や確認を継続し、個人情報保護の意識向上に努めていきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		こどもや保護者の特性に応じて、分かりやすい言葉や説明方法を工夫し、意思疎通や情報伝達が円滑に行えるよう配慮しています。	現在の配慮は概ね適切と考えていますが、今後も個々の特性に応じた伝え方を意識し、より丁寧な意思疎通に努めていきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	地域に開かれた事業運営の必要性は認識しており、地域との関わり方について職員間で共有し、今後の取組に向けた検討を行っています。	現在、地域住民を招いた行事等は十分に実施できていないため、今後は安全面や運営体制に配慮しながら、地域との関わりを持てる取組を検討していきます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		事故防止、緊急時、防犯、感染症対応に関する各種マニュアルを整備し、職員や保護者へ周知するとともに、想定した訓練を実施しています。	現在の体制は概ね適切と考えていますが、今後も訓練内容や周知方法を見直し、より実践的な対応ができるよう継続して改善していきます。

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害時の対応について職員間で共有するとともに、年2回避難訓練を実施しています。	BCPに基づく対応は行っていますが、今後は訓練内容や実施頻度を見直し、より実践的な対応ができる体制づくりを進めていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		利用開始時や必要に応じて、服薬状況や予防接種、てんかん発作等について保護者から事前に確認し、職員間で情報共有を行っています。	現在の確認体制は概ね適切と考えていますが、今後も情報の更新や共有を徹底し、より安全な支援につなげていきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		食物アレルギーのあるこどもについては、契約しに保護者からの情報をもとに対応内容を確認し、職員間で共有した上で適切な配慮を行っています。	現在の対応は概ね適切と考えていますが、今後も情報の更新や職員間の共有を徹底し、より安全な対応が行えるよう努めていきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練を行うとともに、日常の支援においても安全に配慮しながら支援を実施しています。	安全管理は行っていますが、今後は研修内容や安全確認の方法を定期的に見直し、より一層安全意識の向上を図っていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		こどもの安全確保に関して、安全計画に基づく取組内容を保護者に周知し、家庭と連携しながら安全に配慮した支援が行えるよう努めています。	現在の取組は概ね適切と考えていますが、今後も保護者への説明や情報共有の機会を継続し、より一層の連携強化を図っていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリ・ハット事例を事業所内で共有し、職員間で原因や対応について検討することで、再発防止に向けた支援方法や環境面の改善に取り組んでいます。	現在の取組は概ね適切と考えていますが、今後も事例の共有方法や検討の機会を継続し、より安全な支援につなげていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止に関する研修機会を確保し、職員が適切な関わりや対応について理解を深めることで、こどもの権利擁護を意識した支援に努めています。	現在の取組は概ね適切と考えていますが、今後も研修内容の振り返りや共有を行い、虐待防止への意識向上を継続していきます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	3	身体拘束は原則行わない方針としており、職員間で共通認識を持ち、日常の支援においても代替手段を検討しながら対応しています。	やむを得ず身体拘束が必要となる場合に備え、判断基準や手続き、保護者への説明方法等について、今後組織的な整理と検討が必要であると考えています。

事業所における自己評価総括表				
公表				
○事業所名	てらびあぽけっと平野教室			
○保護者評価実施期間	2025年 12 月 1 日 ～ 2025年12 月 20 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2025年 12 月 1 日 ～ 2025年 12 月 7 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2 月 10 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者一人ひとりの発達段階に合わせ、適切な支援が行えるよう、マンツーマンでの療育を実施していること。	できたことをその都度丁寧に認め、次回の利用日も楽しみに来所できるよう心掛けている。	ご家族様から帰宅後の様子や家庭・園での過ごし方を聞き取り、職員間で共有し、支援に生かしていきたい。
2	GoogleやInstagram、ホームページ等を活用し、定期的に情報発信を行っていること。	利用者が楽しみながら取り組んでいる様子が伝わるよう、情報発信の内容を随時更新している。	ご家族様からの意見や質問を気軽に伝えていただけるよう、相談しやすい環境づくりを工夫していきたい。
3	利用者それぞれの発達状況に応じた児童発達支援計画を作成し、計画に基づいた支援を行っていること。	家族や本人のニーズを踏まえ、職員間で情報共有を行いながら、児童発達支援計画や日々のプログラムを作成している。	ご家族様が気軽に相談できる環境づくりを進め、子育てや生活上の悩みの解決に向けた支援を行っていきたい。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	相談支援や保育所・幼稚園、地域との交流の機会が十分とは言えないこと。	一人ひとりに合わせたマンツーマン支援を大切にしており、その取組をさらに充実させていきたいと考えている。	イベントや空き状況・近況等を伝えたり聞いたりして、他施設との関係づくりを進め、連携の機会を増やしていく。
2	地域に開かれた事業運営について、さらなる工夫が必要であること。	個別療育を中心とした支援体制のため、地域の子ども・子育て会議等への参加が難しい場合もあるが、可能な範囲で、参加を検討していく。	関係機関と支援内容等を共有した上で、相互理解を深める交流の機会を増やしていく。
3	保護者同士やきょうだい児同士が交流できる機会を、今後増やしていく必要があること。	個別療育のため、なかなかこういった機会を設けることが難しい。また、共働き世帯が増えてきているため、日時の設定も難しい。	イベントにきょうだい児で参加していただいたり、保護者会等の交流ができる機会を検討していきたい。